

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19年度

生産量 前年度比 ↓ 前々月比 ↑

・前々月に比べ、中国等で下方修正もロシア等で上方修正された。

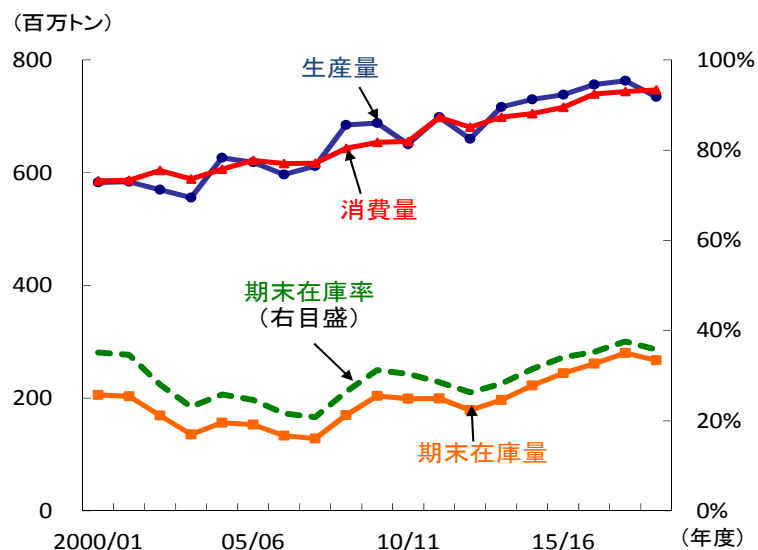
消費量 前年度比 ↑ 前々月比 ↑

・前々月に比べ、米国等で下方修正も中国等で上方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前々月比 ↑

・前々月に比べ、豪州等で下方修正もロシア等で上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前々月比 ↓



注：USDA「PS&D」(2019.2.8)をもとに農林水産省で作成。

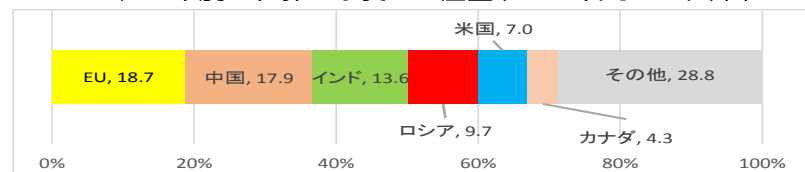
◎世界の小麦需給

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万トン)

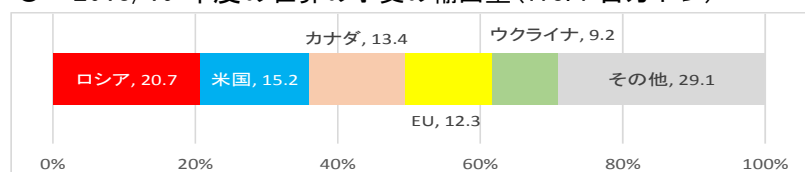
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前々月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	756.5	763.2	734.8	1.3	▲ 3.7
消費量	739.9	744.2	747.2	2.0	0.4
うち飼料用	147.6	147.7	143.2	1.2	▲ 3.0
輸出量	183.4	181.2	178.7	1.3	▲ 1.4
輸入量	178.9	179.1	176.2	0.5	▲ 1.6
期末在庫量	261.1	280.0	267.5	▲ 0.6	▲ 4.5
期末在庫率	35.3%	37.6%	35.8%	▲ 0.2	▲ 1.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain : World Markets and Trade」、 「PS&D」 (8 February 2018)

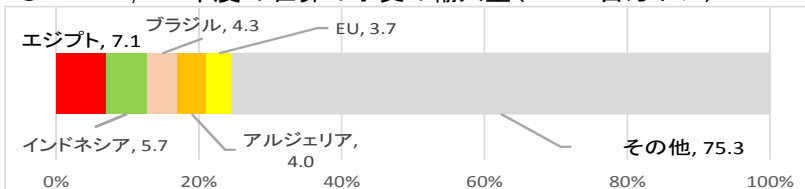
○ 2018/19年度の世界の小麦の生産量(734.8百万トン)(単位：%)



○ 2018/19年度の世界の小麦の輸出量(178.7百万トン)



○ 2018/19年度の世界の小麦の輸入量(176.2百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生産動向・その他】2018/19年度は、米国農務省(USDA)によれば、生産量は12月からの改訂はなく、51.3百万トンの見込み。

2019/20年度は、冬小麦の作付けが9月初旬に開始され、概ね11月に終了したが、2月24日付けの主要産地の作況(良からやや良の割合)は、2018年11月に比べ、カンザス州で5ポイント改善も、モンタナ州で28ポイント、オクラホマ州で18ポイント悪化した。

作付面積は降雨過多による圃場のぬかるみと低温により前年度(13.17百万ヘクタール)を4%下回る12.66百万ヘクタールと、1909年に次ぐ最小の面積となる見込み。作付面積の減少は、主産地のカンザス州、オクラホマ州で大きく、ネブラスカ州では史上最小の作付面積となる見込み(品種別の作付面積はP6「参考」を参照)。

【需給状況】2018/19年度の飼料用消費量は、前々月より0.8百万トン下方修正され2.2百万トンの見込み。品種別にはハードレッドウインター(HRW)が0.54百万トン、ソフトレッドウインター(SRW)とハードレッドスプリング(HRS)がそれぞれ0.13百万トン下方修正された。

< カナダ >

【生育・生産状況】2018/19年度は、カナダ農務農産食品省(AAFC)の2月報告によると、生産量は、単収の上昇と収穫面積の増加から、1月に比べ0.8百万トン上方修正され、31.8百万トンとなる見込み。そのうち、デュラム小麦を除く普通小麦は0.7百万トン上方修正され26.0百万トン、デュラム小麦は0.1百万トン上方修正され5.8百万トンとなる見込み。

2019/20年度のデュラム小麦を除く普通小麦の作付面積は、冬小麦が4%減少するものの、春小麦が10%増加(春小麦の価格が相対的に高く、デュラム小麦、冬小麦からのシフトによる)することから、前年度より9%増の8.3百万ヘクタール、デュラム小麦は2013/14年度以来の低価格により、前年度より25%減少の1.9百万ヘクタールの見込み。

小麦—米国 (冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前々月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	62.8	47.4	51.3	-	8.3
消費量	31.9	29.4	30.3	▲ 1.0	3.2
うち飼料用	4.4	1.4	2.2	▲ 0.8	56.8
輸 出 量	28.6	24.5	27.2	-	11.0
輸 入 量	3.2	4.3	3.8	-	▲ 11.0
期末在庫量	32.1	29.9	27.5	1.0	▲ 8.1
期末在庫率	53.1%	55.5%	47.8%	2.5	▲ 7.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	17.75	15.20	16.03	-	5.5
単収(t/ha)	3.54	3.12	3.20	-	2.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)

小麦—カナダ (春小麦を主に栽培)

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、() はAAFC	前々月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.1	30.0	31.8 (31.8)	-	6.1
消費量	10.8	9.2	9.3 (9.0)	-	1.5
うち飼料用	5.8	4.3	4.3 (4.1)	-	0.9
輸 出 量	20.2	22.0	24.0 (22.8)	-	9.3
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-
期末在庫量	6.9	6.2	5.1 (6.0)	-	▲ 17.0
期末在庫率	22.2%	19.9%	15.4% (18.9%)	-	▲ 4.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	8.98	8.98	9.90 (9.88)	-	10.2
単収(t/ha)	3.58	3.34	3.21 (3.22)	-	▲ 3.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(22 February 2019)

<豪州>

【生育・生産状況】豪州農業資源科学局 (ABARES) の最終生産高推定となる「Australian crop Report」(2月)によれば、2018/19年度の生産量は、生育期の降雨に恵まれたウェスタンオーストラリア州(WA州)の生産量の増加から、12月に比べ0.3百万トン上方修正されたものの、2007/08年度以来最低の17.3百万トンとなる見込み。

ウェスタンオーストラリア州穀物産業協会 (GIWA) の2月の収穫報告によれば、州内の作物全体に占める小麦の作付シェアは過去最少の54%(ABARESによれば、小麦から大麦への作付けのシフトがその要因)であったが、単収が高かったため、生産量が前年度より34%増の10.15百万トンとなっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、当初、輸出向けのWA州産小麦が、干ばつにより生産減となった東部で飼料向けに消費されたことから、豪州の輸出余力が減少し、2018/19年度の輸出量は12月に比べ0.5百万トン下方修正され、2007/08年度以来最低の10.5百万トンとなる見込み。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万トン)

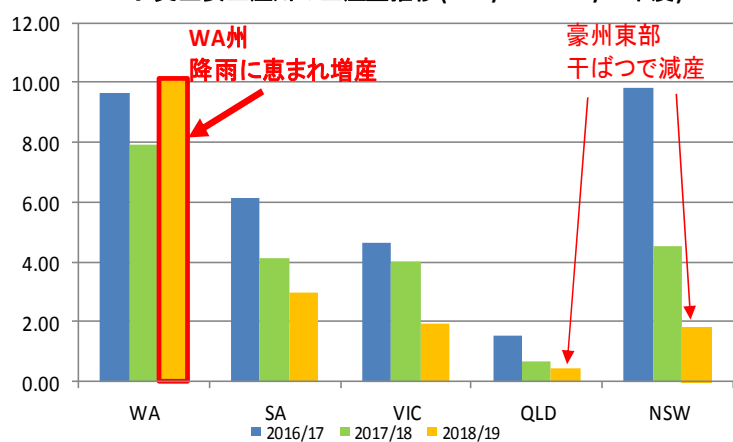
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前々月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	31.8	21.3	17.0 (18.4)	-	▲ 20.2
消費量	7.5	7.5	9.0 (5.3)	-	20.3
うち飼料用	4.0	4.0	5.5 (0.1)	-	37.5
輸出量	22.6	13.9	10.0 (13.9)	▲ 0.5	▲ 27.8
輸入量	0.2	0.2	0.2 (0.0)	-	▲ 6.3
期末在庫量	5.7	5.9	4.0 (0.5)	0.7	▲ 31.5
期末在庫率	19.0%	27.5%	21.2% (2.7%)	4.0	▲ 6.4

(参考)

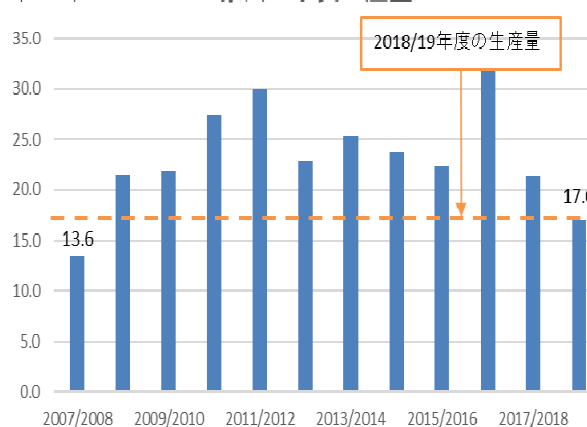
収穫面積(百万ha)※	12.19	12.25	10.00 (10.16)	-	▲ 18.4
単収(t/ha)	2.61	1.74	1.70 (1.70)	-	▲ 2.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)
IGC 「Grain Market Report」(21 February 2019)

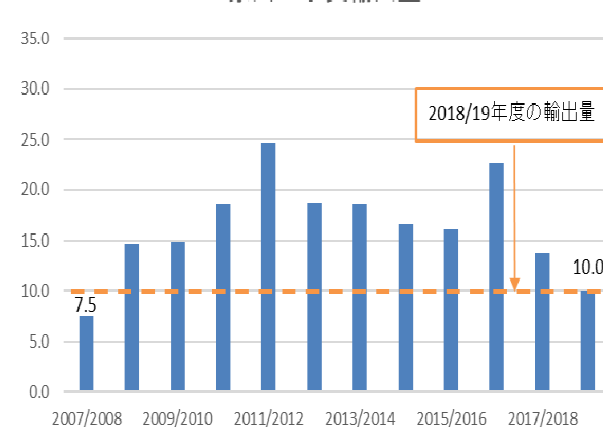
(百万トン) 小麦主要生産州の生産量推移 (2016/17～2018/19年度)



(百万トン) 豪州の小麦生産量



(百万トン) 豪州の小麦輸出量



2018/19年度の豪州の小麦生産量、輸出量は2007/08年度以降最低となった。

資料: ABARES 「Australian crop Report」(2019.2.21)及び米国農務省「PS&D」(2019.2.8)から農林水産者で作成。

< EU >

【生育・生産状況】2019/20年度の冬小麦は、2月中旬までに東ヨーロッパからフランス北部まで休眠期に入った。その後、フランス西部、ドイツ東北部等ではまとまった降雨があり土壌水分が改善された一方で、イベリア半島では降水量が例年の50～75%のため、現在、同半島での被害は大きくないが、十分な成長のためには追加降雨が必要な状況。

IGCによると、2019/20年度の収穫面積は、2018/19年度(25.4百万ヘクタール)に比べ4.6%増の26.6百万ヘクタールの見込み。

【貿易情報・その他】EU委員会によると、2018/19年度(2018年7月1日～2019年2月17日)の輸出量は、乾燥により生産量が減少したため、前年同時期(14.56百万トン)より21%減少し、11.50百万トンである。一方、輸入量は前年同時期(3.6百万トン)より10%増加し、4.0百万トンである。普通小麦の輸入先国では前年度のシェアが9.3%であったロシアが26.6%と大きく伸ばした一方で、ウクライナは44.5%から19.3%にシェアを減少させた。理由としては、価格が同程度ながら、ロシア産の品質がウクライナ産より良好であったことがあげられる。

< 中国 >

【生育・生産状況】2018/19年度の実生産量は、前々月より収穫面積が増加したものの、単収が減少したことから131.4百万トンに下方修正された。

2019/20年度は、冬小麦が主産地の華北地域を中心に休眠期に入っている。中国農業農村部の2月13日プレスによれば、華北、長江流域等の主産地では土壌水分に恵まれ、良好な生育状況となっている。また、中央气象台の作柄観測によると、中国全土の冬小麦の一、二類苗(※)の比率はそれぞれ20%、79%であり、先月同時期より一類苗の比率が1ポイント上方修正された。

【需給状況】USDAによれば、低品質小麦の在庫が積み上がったこと、飼料用穀物需要が増加したこと等から、低品質小麦が飼料用に消費され、前々月に比べ飼料用需要が2.0百万トン上方修正された。

小麦-EU (冬小麦を主に栽培)

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はEU	前々月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	145.4	151.3	137.6 (137.4)	-	▲ 9.0
消費量	128.0	130.4	125.0 (128.6)	-	▲ 4.1
うち飼料用	56.0	58.0	53.0 (55.0)	-	▲ 8.6
輸出量	27.4	23.3	22.0 (19.0)	-	▲ 5.5
輸入量	5.3	5.8	6.5 (5.8)	-	11.7
期末在庫量	10.7	14.1	11.2 (15.1)	-	▲ 20.5
期末在庫率	6.9%	9.2%	7.6% (10.2%)	-	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	#REF!	27.23	25.55 (25.56)	▲ 0.53	▲ 6.2
単収(t/ha)	25.55	5.34	5.39 (5.4)	▲ 0.41	0.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」(8 February 2019)
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(30 January 2018)

小麦-中国 (冬小麦を主に栽培)

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前々月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	133.3	134.3	131.4 (403.6)	▲ 1.1	▲ 2.2
消費量	119.0	121.0	125.0 (236.3)	2.0	3.3
うち飼料用	17.0	17.5	20.0 (87.2)	2.0	14.3
輸出量	0.8	1.0	1.2 (166.2)	-	20.0
輸入量	4.4	4.0	3.5 (10.0)	▲ 0.5	▲ 12.5
期末在庫量	114.9	131.3	140.0 (78.9)	▲ 3.6	6.7
期末在庫率	96.0%	107.6%	110.9% (19.6%)	▲ 4.7	3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.69	24.51	24.27 (24.27)	0.06	▲ 1.0
単収(t/ha)	5.40	5.48	5.42 (5.42)	▲ 0.05	▲ 1.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)
IGC 「Grain Market Report」(21 February 2019)

※一類苗: 生育が正常な苗、二類苗: 通常の苗よりやや小さい苗
三類苗: 病気の苗、弱い苗。

< ロシア >

【生育・生産状況】2018/19年度の生産量は、米国農務省(USDA)によると、12月に比べ、収穫面積の増加と単収の上昇により1.6百万トン上方修正され71.6百万トンとなるものの、史上最高の昨年度より13.4百万トン減少の見込み。この単収の上昇は、収穫後の品質調整歩留まりの向上によるもので、ロシアの穀物処理技術の向上を示している。

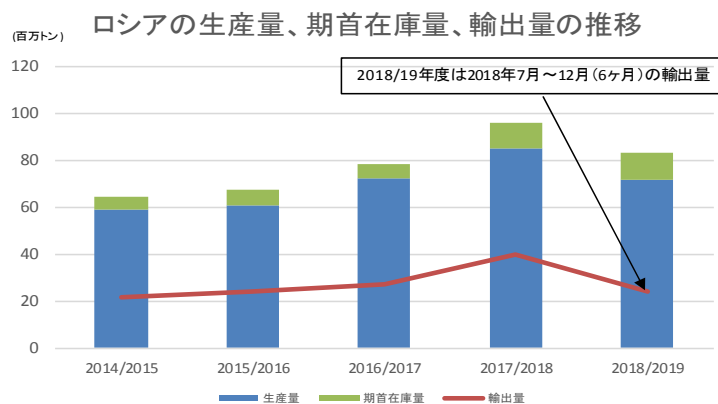
なお、生産量の品種別内訳は、冬小麦が51.0百万トン、春小麦が20.6百万トンである。

2019/20年度は、欧州・アジア地域ともに大部分で冬枯れも少なく休眠期を迎えている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2018/19年度(2018年7月～2019年6月)の輸出量は、前々月に比べさらに0.5百万トン上方修正され37.0百万トンとなる見込み。例年冬季にはアゾフ海の浅い港が凍結し穀物輸出のペースは落ちるが、2年続きの温暖な天候のため輸出は途切れなく行われ、2019年1月末までにすでに27.0百万トンの小麦が輸出された。

一方で、1月中旬から2月上旬にかけて、ロシア国内の穀物価格が上昇したため、ロシア産小麦は世界市場での競争力が低下した。この価格の上昇は南部管区での小麦在庫量の減少と政府の輸送費への補助金の削減が要因。

なお、ロシア農業省は、2月11日の輸出業者との会合で、穀物輸出業者団体の4月までの設立を提案。今後、政府主導での輸出管理の強化につながる可能性があることから、輸出動向については注視する必要がある。



小麦－ロシア (主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万トン)

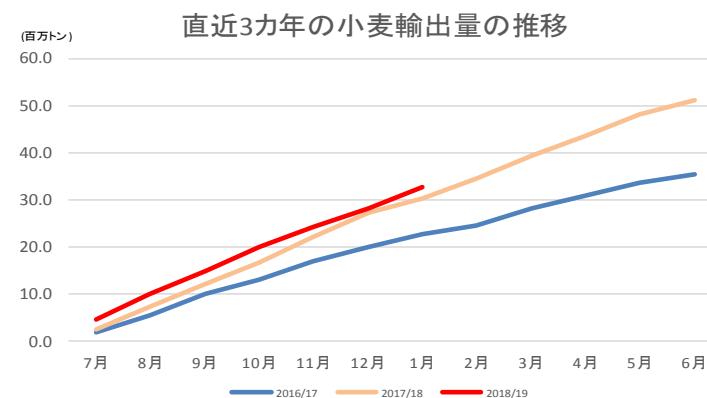
年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC	前々月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	72.5	85.0	71.6 (15.0)	1.6	▲ 15.8	
消費量	40.0	43.0	40.5 (7.1)	-	▲ 5.8	
うち飼料用	17.0	20.0	18.0 (2.3)	-	▲ 10.0	
輸出量	27.8	41.4	37.0 (7.4)	0.5	▲ 10.7	
輸入量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	6.4	
期末在庫量	10.8	11.9	6.5 (3.2)	1.1	▲ 45.5	
期末在庫率	16.0%	14.1%	8.3% (21.7%)	1.4	▲ 5.7	

(参考)

収穫面積(百万ha)	27.00	27.34	26.20 (26.97)	0.20	▲ 4.2
単収(t/ha)	2.69	3.11	2.73 (2.66)	0.04	▲ 12.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)
IGC 「Grain Market Report」(21 February 2019)

※USDAはロシア連邦統計庁の生産報告72.1百万トンからクリミアの生産量0.5百万トンを除いている。



資料：ロシア連邦税関庁及び米国農務省「PS&D」(2019.2.8)から農林水産者で作成。

(参考) 米国の 2019/20 年度冬小麦の作付状況

(米国農務省「Winter Wheat and Canola Seedings」(2019年2月8日)等より)

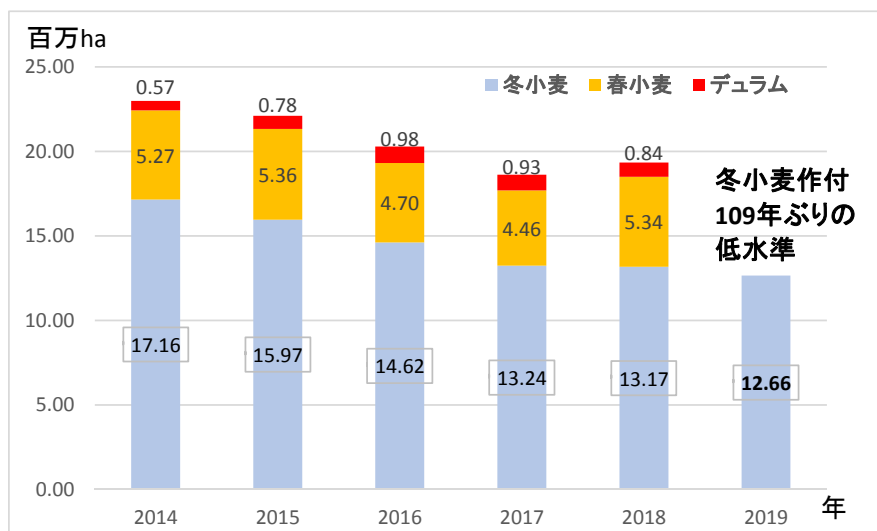
○作付面積は、主産地のロッキー山麓東側で降雨過多や低温の影響を受け、作付けできない圃場もあったことから、前年比4%減の、1909年以來109年ぶりの低水準となる12.7百万ヘクタール。

内訳はハードレッドウィンター (HRW) 9.0百万ヘクタール、ソフトレッドウィンター (SRW) が2.3百万ヘクタール、ホワイト冬小麦が1.4百万ヘクタール。

○州別にはカンサス州、テキサス州、オクラホマ州といったロッキー山麓東側に広がるグレートプレーンズが中心。

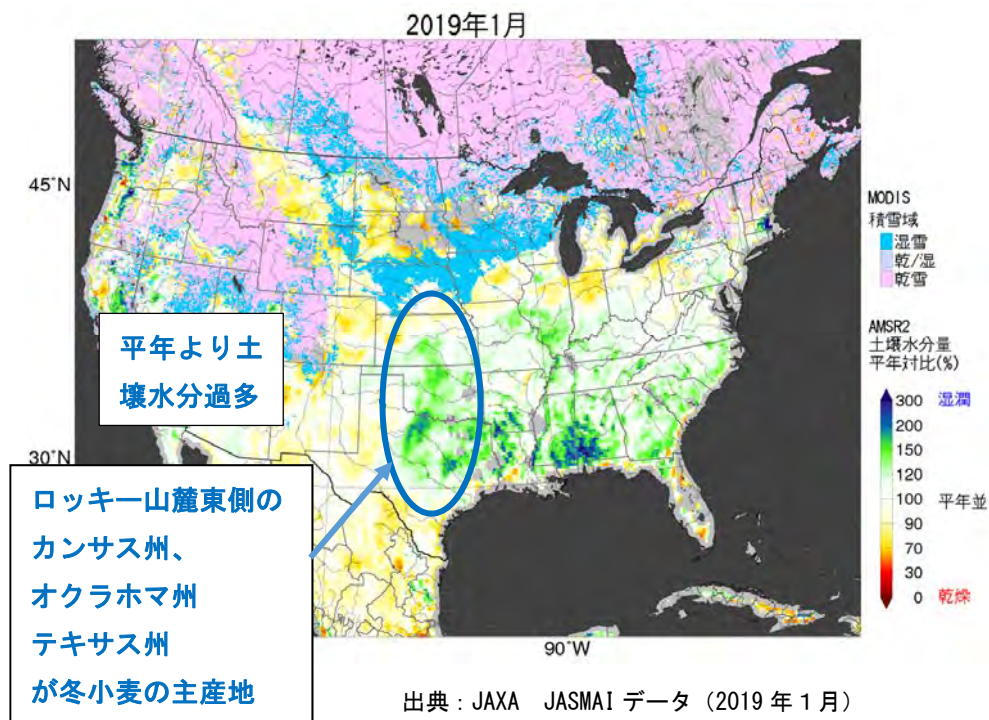
(その他、カリフォルニア州、アリゾナ州の砂漠地帯でわずかではあるがデュラム冬小麦を作付け。)

図1 最近の米国の小麦の作付面積の推移



出典：USDA「Winter Wheat and Canola Seedings」(2019.2.8)ほか
USDA 資料を農林水産省で加工

図2 2019年1月の米国の冬小麦栽培地域の土壌水分の平年比



2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↑ 前々月比 ↓

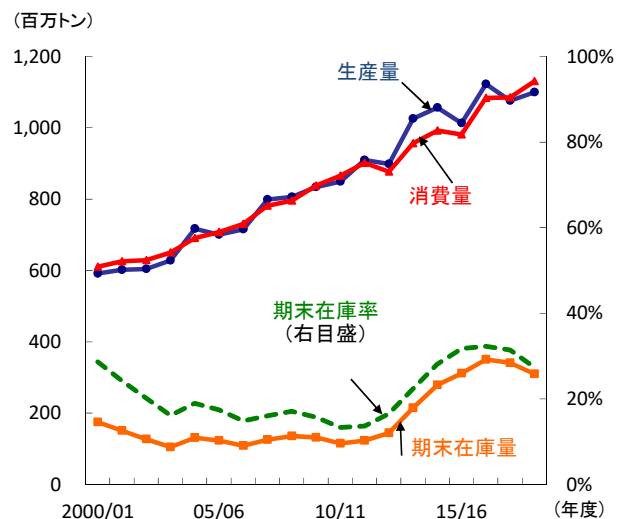
前々月に比べ、アルゼンチンの単収が上方修正されたものの、米国での単収の下方修正等により下方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前々月比 ↓

前々月に比べ、米国の飼料用需要、エタノール用需要の下方修正等により下方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前々月比 ↑

期末在庫量 前年度比 ↓ 前々月比 ↑



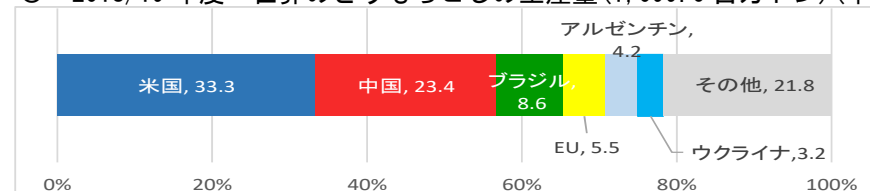
USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較

(単位:百万トン)

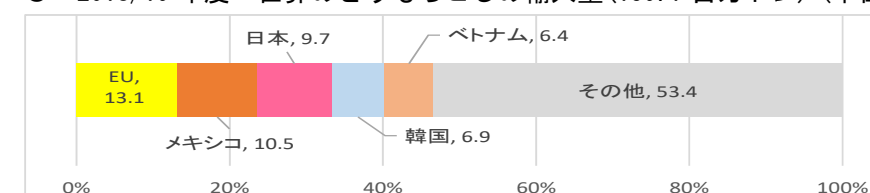
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前々月予測からの変更	対前年度増減率 (%)
生産量	1,122.4	1,075.6	1,099.6	▲ 0.3	2.2
消費量	1,083.6	1,085.1	1,130.6	▲ 0.7	4.2
うち飼料用	656.0	671.0	698.1	▲ 0.7	4.0
輸出量	160.1	146.3	167.4	0.9	14.4
期末在庫量	350.2	340.8	309.8	1.0	▲ 9.1
期末在庫率	32.3%	31.4%	27.4%	0.1	▲ 4.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (8 February 2019)

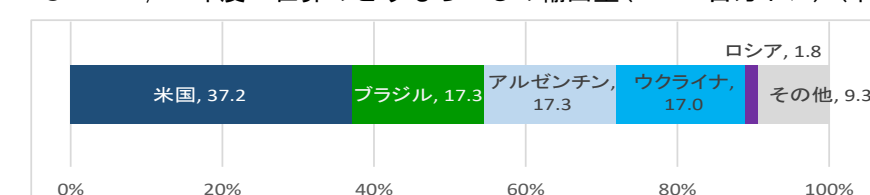
○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの生産量 (1,099.6 百万トン) (単位: %)



○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの輸入量 (159.7 百万トン) (単位: %)



○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの輸出量 (167.4 百万トン) (単位: %)



資料: USDA 「WASDE」 (2019.2.8) をもとに農林水産省にて作成

(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）による単収調査報告を受け、12月予測と比べ、収穫面積、単収ともに下方修正され、生産量は366.3百万トンの見込みである。下方修正されたものの、生産水準は高く、これは史上3番目に高い生産量である。

【需要動向】飼料用、バイオエタノール加工用、食用の需要については、昨年9月から11月の国内需要が低下したことから、その動向を反映し、下方修正している。

【貿易情報・その他】米国産とうもろこしは、安定的に供給可能な飼料用等の穀物としての需要が高い。USDAの輸出検証高によると、1月単月（419万トン）では、日本向けが一番多く（141万トン）、続いてメキシコ、コロンビア、ペルー、韓国向けとなっており、東アジア、中南米向けが多くなっている。

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

とうもろこし—米国

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前々月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	384.8	371.1	366.3	▲ 5.2	▲ 1.3
消費量	313.8	314.0	315.4	▲ 4.2	0.4
うち飼料用	138.9	134.7	136.5	▲ 3.2	1.3
エタノール用等	138.0	142.4	141.6	▲ 0.6	▲ 0.5
輸出量	58.3	61.9	62.2	-	0.5
輸入量	1.5	0.9	1.0	▲ 0.1	10.9
期末在庫量	58.3	54.4	44.1	▲ 1.2	▲ 18.9
期末在庫率	15.7%	14.5%	11.7%	▲ 0.2	▲ 2.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	35.11	33.47	33.08	▲ 0.01	▲ 1.2
単収(t/ha)	10.96	11.08	11.07	▲ 0.16	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)

とうもろこし—アルゼンチン

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前々月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	41.0	32.0	46.0 (51.0)	3.5	43.8
消費量	11.2	12.4	13.8 (22.6)	1.4	11.3
うち飼料用	7.5	8.5	9.7 (17.5)	1.2	14.1
輸出量	26.0	21.0	29.0 (29.0)	1.0	38.1
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	5.3	3.9	7.1 (8.3)	2.6	82.5
期末在庫率	14.2%	11.6%	16.5% (16.1%)	5.5%	4.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	4.90	5.20	5.50 (6.88)	0.30	5.8
単収(t/ha)	8.37	6.15	8.36 (7.20)	0.19	35.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)
IGC「Grain Market Report」(21 February 2019)

< ブラジル >

【生育・生産状況】ブラジル食料供給公社（Conab）によると、2018/19年度のとうもろこし（夏とうもろこし、冬とうもろこしの合計）の作付面積は、16.8百万ヘクタール（前年度比1.3%増）、生産量は、91.7百万トン（前年度比13%増）の見込みである。うち、夏とうもろこしは、26.5百万トン（前年度比1.3%減）、大豆収穫後に作付される冬とうもろこしは65.2百万トン（前年度比21%増）である。夏とうもろこしは、12月から1月にかけて、一部地域で降水量が少なかったことから、生産量の見込みが下方修正されている。

【需要状況】内陸である中西部（とりわけマットグロッソ州）を中心に、とうもろこし原料のバイオエタノール工場の建設が開始されている。なお、現時点でのバイオエタノール需要量は、ブラジル全体の消費量の1%にも満たない程度である。

【貿易情報・その他】貿易統計によると、1月の輸出量は423万トンであり、前年同期（302万トン）を大きく上回っている。これは、今期、前年度に比べて収穫時期が早かったことから、生産量が増加したことによるものである。主な輸出先は、ベトナム、イラン等である。

< 中国 >

【生育・生産状況】中国糧油情報センターの2月13日付け情報によると、生産量は、257.3百万トンで前月と変わらず。

【需要状況】中国農業農村部によると、2018年には、国内供給をまかなうために国家備蓄とうもろこし競売が行われ、競売成約量は1億トンを超えた。そのため、中国農業農村部の「農産品供勢分析月報」（1月分）によると、2018年後半から、国産とうもろこし価格は、国際価格を下回って推移している。

【貿易情報・その他】貿易統計によると、1月の輸入量は、40.1万トン（前年同期39.2万トン）であり、うち9割以上がウクライナ産である。

とうもろこし—ブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割）

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 （単位：百万トン）

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前々月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	98.5	82.0	94.5 (93.5)	-	15.2
消費量	60.5	64.5	66.5 (65.2)	-	3.1
うち飼料用	51.0	55.0	56.0 (52.0)	-	1.8
輸 出 量	31.6	24.5	29.0 (29.5)	-	18.4
輸 入 量	0.9	1.0	1.0 (0.5)	-	-
期末在庫量	14.0	8.0	8.0 (7.1)	▲ 1.0	-
期末在庫率	15.2%	9.0%	8.4% (7.5%)	▲ 0.0	▲ 0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.60	16.60	17.50 (17.52)	-	5.4
単収(t/ha)	5.60	4.94	5.40 (5.34)	-	9.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)
IGC「Grain Market Report」(21 February 2019)

とうもろこし—中国

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 （単位：百万トン）

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前々月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	263.6	259.1	257.3 (257.3)	1.3	▲ 0.7
消費量	255.0	263.0	277.0 (288.6)	1.0	5.3
うち飼料用	185.0	187.0	195.0 (186.0)	1.0	4.3
輸 出 量	0.1	0.0	0.1 (0.1)	-	150.0
輸 入 量	2.5	3.5	5.0 (4.5)	-	44.5
期末在庫量	223.0	222.5	207.8 (193.9)	0.3	▲ 6.6
期末在庫率	87.4%	84.6%	75.0% (67.2%)	▲ 0.0	▲ 9.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	44.18	42.40	42.13 (42.1)	0.63	▲ 0.6
単収(t/ha)	5.97	6.11	6.11 (6.11)	▲ 0.06	-

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)
IGC「Grain Market Report」(21 February 2019)

3 米

(1) 国際的な米需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↑ 前々月比 ↑

・前々月に比べ、中国での単収・収穫面積の上方修正により上方修正された。

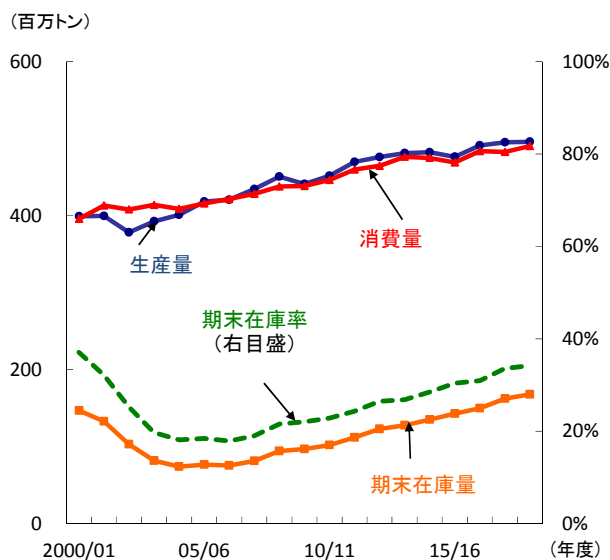
消費量 前年度比 ↑ 前々月比 ↑

・前々月に比べ、中国での消費量の上方修正により上方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前々月比 ↓

・前々月に比べ、タイの輸出量の下方修正により下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前々月比 ↑



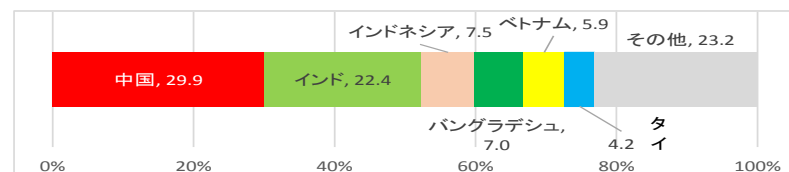
資料：USDA「PS&D」(2019.2.8)をもとに農林水産省にて作成

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万精米トン)

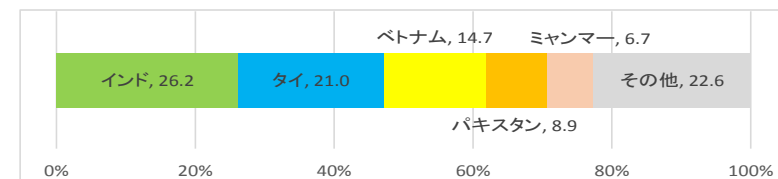
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前々月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	490.9	495.1	495.9	4.7	0.2
消費量	483.8	482.7	490.3	0.7	1.6
輸出量	47.3	47.7	47.7	▲ 0.4	0.1
輸入量	41.3	47.4	45.2	▲ 0.0	▲ 4.6
期末在庫量	149.7	162.0	167.6	4.4	3.5
期末在庫率	30.9%	33.6%	34.2%	0.8	0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)

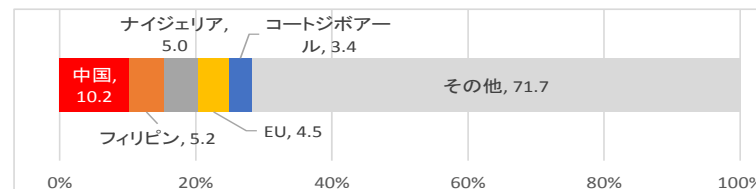
○ 2018/19 年度 世界の米の生産量(495.9百万トン) (単位:%)



○ 2018/19 年度 世界の米の輸出量(47.7百万トン)



○ 2018/19 年度 世界の米の輸入量(45.2百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米の米生産に占める生産シェアは約2割

【生産動向】米国農務省(USDA)によれば、生産量は、前々月より単収の上方修正から、前年度より26%増の7.12百万精米トン。うち、長粒種は前年度より28%増の5.21百万精米トン、中・短粒種は前年度より20%増の1.92百万精米トンの見通し。

カリフォルニアの作付面積は前年度より14%増で、うち中短粒種が13%増。

【貿易情報・その他】2月5日の精米価格は、ミシシッピ川流域の長粒種(2等4%砕米混入、ガルフ積み)は供給増により12月より30ドル/トン下落し520ドル/トン。一方、カリフォルニア産中粒種(1等4%砕米混入 精米工場渡し)は12月と比較して、北東アジアからの買付けの増加により100ドル/トン上昇し900ドル/トン。

< インド >

インドでは、雨季をカリフ、乾季をラビと一般的に呼ぶ。北部はカリフ・ラビの二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

【生育・生産動向】

ラビ米の作付けは終了。作付面積2月15日時点で3.4百万ヘクタール(前年同期比15%減)と価格の低下により減少している。生育状況は、南インドのタミルナード州では登熟期から収穫期、南東部のオリッサ州、北東部のアッサム州等では移植期となっている。

【貿易情報・その他】12月31日付けの政府報道局プレスによれば、2018年4月～11月のバスマティ米の輸出量は2.49百万トンと前年同期(2.62百万トン)を3.3%下回ったが、高単価の米輸出の増加により、輸出額は1,844億ルピーと前年度並(1,838億ルピー)となった。

米-米国

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万精米トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前々月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	7.1	5.7	7.1	0.2	25.8
消費量	4.2	4.3	4.3	0.1	0.2
輸出量	3.7	2.8	3.2	0.04	15.2
輸入量	0.8	0.9	0.9	-	7.1
期末在庫量	1.5	0.9	1.5	0.1	61.3
期末在庫率	18.5%	13.2%	20.1%	1.1	6.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.25	0.96	1.18	0.01	22.9
単収(もみt/ha)	8.11	8.41	8.62	0.19	2.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)

米-インド

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万精米トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前々月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	109.7	112.9	111.0 (111.5)	-	▲ 1.7
消費量	95.8	98.7	100.0 (100.0)	-	1.4
輸出量	11.8	12.2	12.5 (12.3)	-	2.5
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	20.6	22.6	21.1 (21.9)	-	▲ 6.6
期末在庫率	19.1%	20.4%	18.8% (19.5%)	-	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	43.99	43.79	44.00 (43.25)	-	0.5
単収(もみt/ha)	3.74	3.87	3.78 (2.58)	-	▲ 2.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)

IGC 「Grain Market Report (22 February 2019)」 (単収は精米t/ha)

< 中国 >

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

【生産動向】USDAによれば、中国国家统计局の生産見通しの公表を受けて、生産量は前年度並みの148.5百万精米トンに上方修正された。単収は史上最高の7.03もみトン/ヘクタールも、政府支持価格の引下げにより収穫面積は2011/12年以来の低水準まで減少。

【貿易情報・その他】物資備蓄局等によると、2018年産の買い上げは終盤を迎え、買い上げ数量は2月10日現在、中晩稲インディカ米は3,321万トン(前年同期比57万トン増)、ジャポニカ米は4,192万トン(前年同期比416万トン減)。

国内の在庫量の増加から、2018年の輸入量は308万トンで前年比24%減。主要輸入先はベトナム(シェア47%)、タイ(31%)、パキスタン(11%)。一方、2018年の輸出量は209万トンで前年比75%増。主要輸出先は、コートジボアール(22%)、ギニア(9%)、韓国(8%)、エジプト(8%)、トルコ(8%)。西アフリカ向け輸出が増加。

農業農村部の2月公表の「農産品供需形勢分析月報」(1月分)によれば、早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれキログラム当たり換算で3.78元、4.08元、4.20元で、早期インディカを除いて季節的な消費の増加から前月と比較して上昇している。

< ベトナム >

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

【生育・生産動向】冬春作の作付けが開始された。1月半ば現在の作付面積は前年同期を1.3%上回る190万ヘクタールとなっている。

【貿易情報・その他】価格については、2月の国内価格は、旧正月を迎え税関が閉まることから輸出が減少し国内供給が過剰となったことから1月と比べ下落している。

2018年1月の輸出価格は、インディカ精米は12月(381ドル/トン)から下落し、354ドル/トン、ジャポニカ精米も11月(530ドル/トン)から下落し、515ドル/トン。在庫の増加等が要因とみられる。

2018年の輸出数量は6.11百万トンと対前年(5.80万トン)比5%増。最大の輸出先の中国向けは減少も、インドネシア、フィリピン向けが増加。

米-中国

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC		前々月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	147.8	148.9	148.5	(148.5)	4.9	▲ 0.3
消費量	141.8	142.5	143.8	(145.0)	1.0	0.9
輸出量	0.8	1.4	2.2	(2.4)	0.4	58.3
輸入量	5.3	5.5	4.5	(4.5)	▲ 0.5	▲ 18.2
期末在庫量	98.5	109.0	116.0	(98.5)	3.0	6.4
期末在庫率	69.1%	75.8%	79.5%	(66.8%)	1.3	3.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	30.75	30.75	30.19	(29.45)	0.13	▲ 1.8
単収(もみt/ha)	6.87	6.92	7.03	(4.81)	0.21	1.6

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)
IGC「Grain Market Report (22 February 2019)」(単収は精米t/ha)

米-ベトナム

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC		前々月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.4	28.5	29.1	(28.6)	-	2.1
消費量	22.0	22.0	22.2	(22.4)	-	0.9
輸出量	6.5	6.6	7.0	(6.8)	-	6.2
輸入量	0.5	0.4	0.4	(0.4)	-	-
期末在庫量	1.0	1.3	1.5	(3.7)	0.1	21.6
期末在庫率	3.4%	4.4%	5.2%	(12.7%)	0.4	0.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.71	7.69	7.76	(7.73)	-	0.9
単収(もみt/ha)	5.68	5.92	5.99	(3.70)	-	1.2

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)
IGC「Grain Market Report (22 February 2019)」(単収は精米t/ha)

< タイ >

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

【生育・生産動向】 タイ中部では乾季米の収穫期、北部では作付期となっている。

タイ農業協同組合省の1月報告によれば、雨季作は24.22百万トン(粳ベース)と前年産(24.93百万トン)より3%減少。乾季作も、生産量は7.86百万トンと前年度(8.55百万トン)より8%減少し、全体で32.08百万トンとなる見通し。

北東部の乾燥やとうもろこしへの転作による作付面積の減少が要因。

【貿易情報・その他】 2018年のタイ産米の輸出量は、2017年(11.67百万トン)と比較して、11.09百万トンで4.2%減少したが、輸出額は2017年(1,751億バーツ)と比較して、1,803億バーツで2.9%の増加となった。輸出量の減少にもかかわらず、高品質米の輸出が増加したため、輸出額が増加した。

2019年の輸出に関しては、フィリピンが米の輸入数量制限を撤廃し関税化を行ったが、タイバーツが高くタイ産米の輸出競争力が低下していることや、中国が安価な政府在庫米をアフリカ諸国の輸出に向けていること等から、他国との厳しい輸出競争に直面すると見られている。

(参考1) フィリピン(主に長粒種を栽培)の米政策の改革(IGC(国際穀物理事会)2月15日情報による)

フィリピン政府は、大統領が米関税化法案に署名したと公表。その内容は、

- ・米の輸入数量制限を撤廃し関税化を実施。アセアン内の輸入関税35%及びそれ以外の国向けの輸入関税50%~180%の設定、
- ・米農家の競争力強化支援基金の設立、
- ・National Food Authority(国家食糧庁)の権限を国内の米在庫形成のための買付けに限定する等。

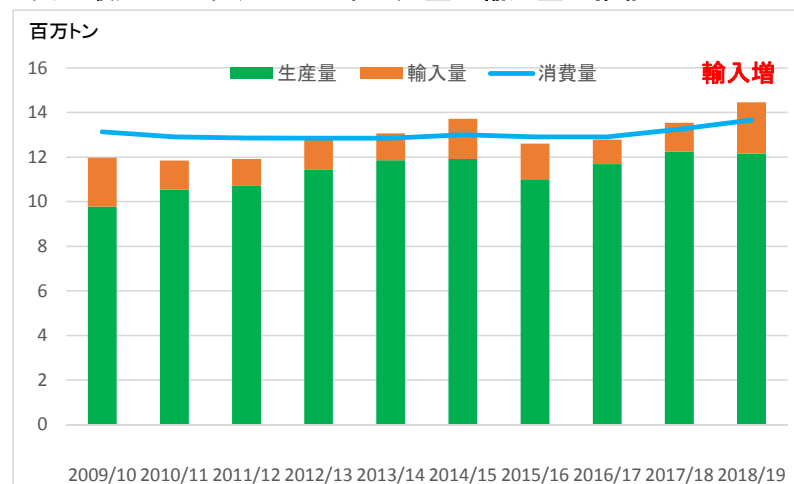
米ータイ

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC	前々月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	19.2	20.4	20.7 (20.4)	-	1.6	
消費量	12.0	10.6	10.5 (10.5)	-	▲ 0.9	
輸出量	11.6	11.1	10.0 (10.2)	▲ 0.3	▲ 9.7	
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-	
期末在庫量	4.2	3.2	3.6 (3.1)	0.3	14.2	
期末在庫率	18.0%	14.7%	17.7% (15.0%)	1.8	3.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.25	10.68	10.96 (10.50)	-	2.6	
単収(もみt/ha)	2.84	2.89	2.86 (1.94)	-	▲ 1.0	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)
IGC 「Grain Market Report (22 February 2019)」 (単収は精米t/ha)

図 最近のフィリピンの米生産量と輸入量の推移

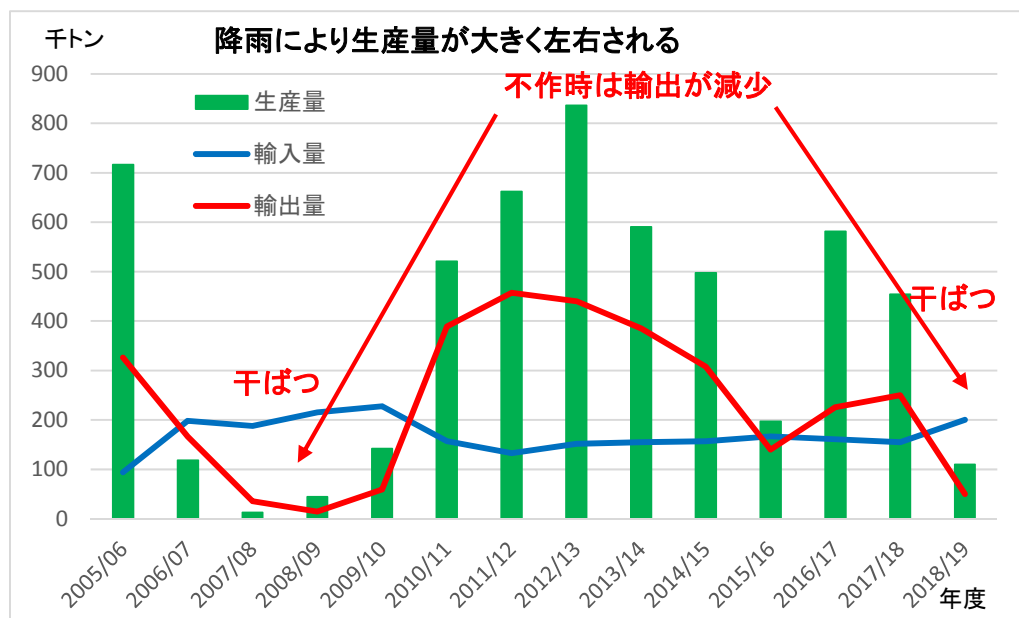


資料: USDA 「P&D」(2019.2.8)をもとに農林水産省にて作成

(参考2) 豪州の2018/19年度の米生産は大幅に減少(豪州東部のニューサウスウェールズ(NSW)州で主に中・短粒種を栽培)

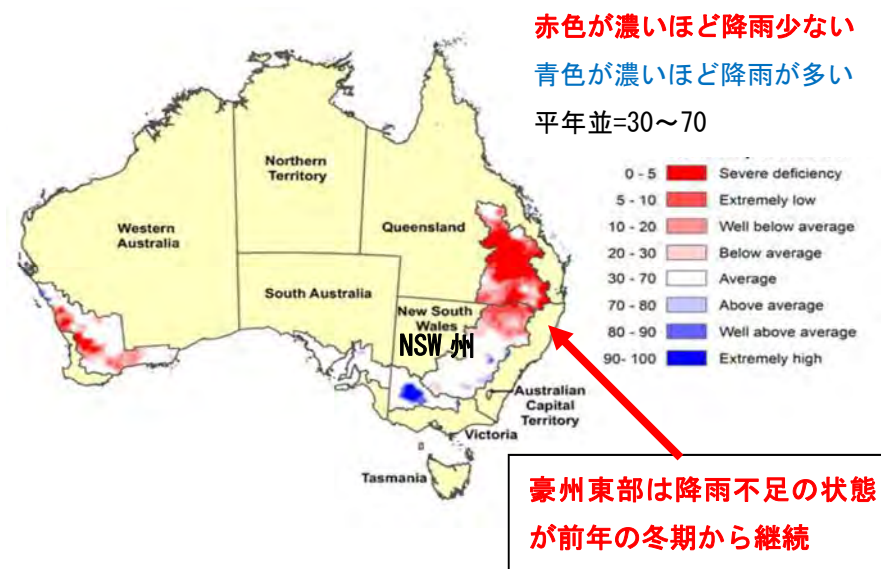
- ・前年10月以降作付けされた米は3月以降、収穫期をむかえる。
- ・豪州 ABARES(豪州農業資源経済科学局)の2月19日付けクロップレポートによると
主産地の NSW 州南部における灌漑用水の不足等から、作付面積が前年度比 83%減の 10 千ヘクタール、
生産量は前年度比 84%減の 104 千トンの見通し。

図1 最近の豪州の米生産量と輸出入量の推移



資料：USDA「FPS&D」(2019.2.8)をもとに農林水産省にて作成

図2 豪州の2018年11月～2019年1月の降水量の平年対比



出典：ABARES「クロップレポート」(2019.2)

II 油糧種子

1 大豆

(1) 国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↑ 前々月比 ↓

・前々月に比べ、ブラジルでの単収の下方修正のため、下方修正された。

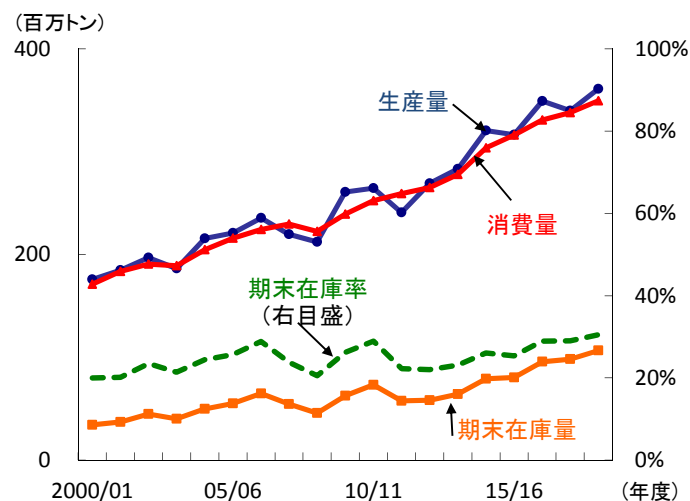
消費量 前年度比 ↑ 前々月比 ↓

・前々月に比べ、中国の搾油需要の下方修正により、下方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前々月比 ↓

・前々月に比べ、ブラジルの輸出量の減少により、下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前々月比 ↓

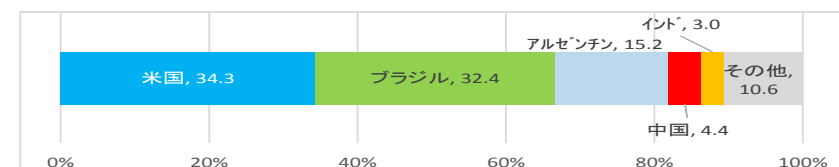


USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万トン)

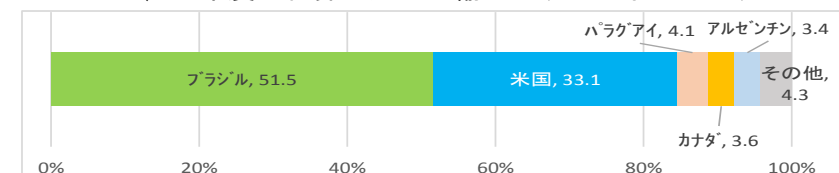
年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前々月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	349.3	340.0	361.0	▲ 8.2	6.2
消費量	330.8	338.2	349.4	▲ 2.1	3.3
うち搾油用	287.4	295.3	304.8	▲ 3.4	3.2
輸出量	147.5	153.0	154.4	▲ 1.7	0.9
期末在庫量	95.8	98.1	106.7	▲ 8.6	8.8
期末在庫率	29.0%	29.0%	30.5%	▲ 2.3	1.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (8 February 2019)

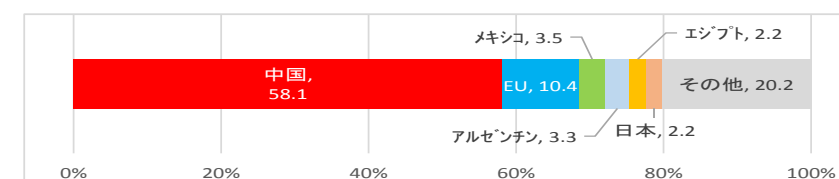
○ 2018/19 年度の世界の大豆の生産量 (361.0 百万トン) (単位: %)



○ 2018/19 年度の世界の大豆の輸出量 (151.4 百万トン)



○ 2018/19 年度の世界の大豆の輸入量 (154.4 百万トン)



資料: USDA 「PS&D」 (2019. 2. 8) をもとに農林水産省で作成。

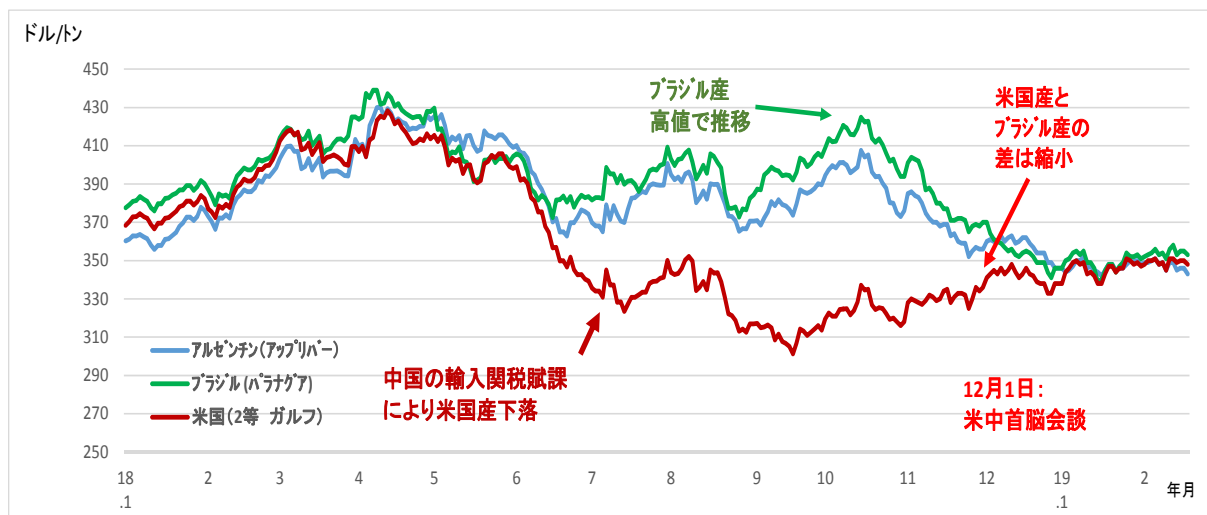
(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によると、収穫面積、単収ともに下方修正され、生産量は、123.7百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDAによると、一時80ドル/トン以上開きのあった米国産大豆とブラジル産大豆のFOB価格の差は縮小し、中国による米国産買付けの開始を背景に縮小し、ここ2ヶ月間は、米国産とブラジル産、アルゼンチン産の大豆価格は僅差となっている。2018年後半の中国向け輸出は低調であったが、2019年1月の輸出検証高では、中国が最も多く130.7万トンである。

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



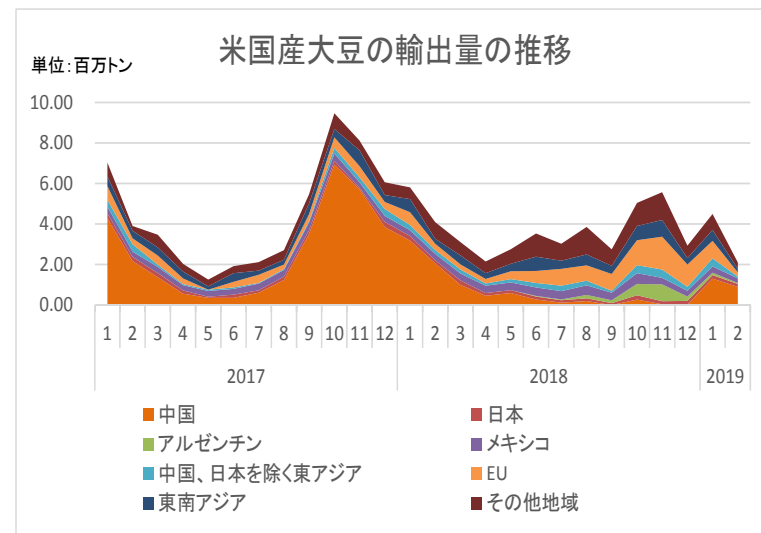
資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

大豆－米国

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前々月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.9	120.1	123.7	▲ 1.5	3.0
消費量	55.7	59.0	60.3	0.3	2.3
うち搾油用	51.7	55.9	56.9	0.3	1.7
輸出量	59.0	58.0	51.0	▲ 0.7	▲ 11.9
輸入量	0.6	0.6	0.5	▲ 0.1	▲ 8.5
期末在庫量	8.2	11.9	24.8	▲ 1.2	107.7
期末在庫率	7.2%	10.2%	22.2%	-1.0%	12.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.47	36.23	35.66	▲ 0.09	▲ 1.6
単収(t/ha)	3.49	3.31	3.47	▲ 0.03	4.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)



資料：USDA 輸出検証高

大豆－ブラジル

< ブラジル >

【生育・生産状況】ブラジル国家食料供給公社(Conab)は、生産量が国内第2位であるパラナ州の生産量が乾燥のため下方修正されたことから、2018/19年度の生産見通しを前月から3.5百万トン引下げ、115.5百万トンへと下方修正した。

【需要動向】ブラジル油糧作物工業連盟によると、2012年頃までは生産量の50%以上を搾油業界が買い付けていたが、大豆生産量の拡大とともに、その割合は低下している。2018年は30%台、2019年には20%台にまで低下する見込みである。搾油量は横ばいであり、大豆生産増加分は中国を始めとする輸出に向けられている状況である。

【貿易情報・その他】2018年の輸出量は、年間で83.6百万トンに達し、2017年の68.1百万トンを大きく上回った。輸出先は、中国が大多数(82%)を占めており、その他欧州、中近東諸国へも輸出されている。2019年1月については、2.2百万トン(前年同期1.6百万トン)の輸出量のうち、中国向けが2.0百万トン(前年同期1.3百万トン)である。

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較

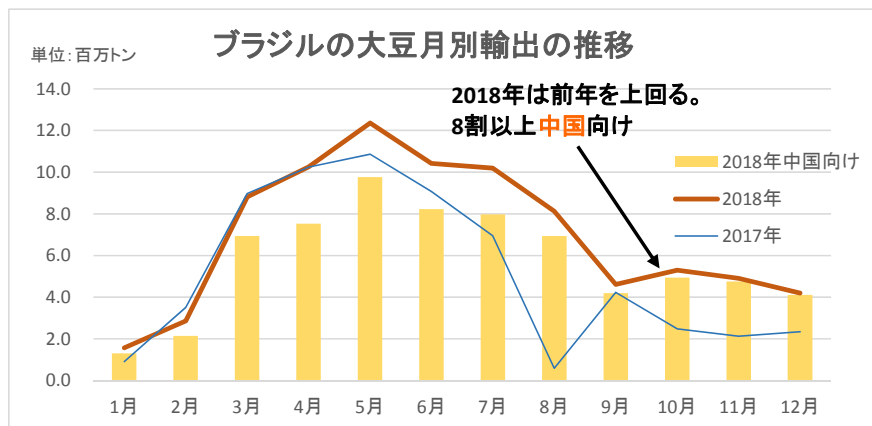
(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前々月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	114.6	120.8	117.0 (117.5)	▲ 5.0	▲ 3.1
消費量	43.1	46.5	45.1 (・・・)	0.0	▲ 3.1
うち搾油用	40.4	44.5	42.7 (43.3)	-	▲ 4.1
輸 出 量	63.1	76.2	79.5 (74.5)	▲ 1.5	4.4
輸 入 量	0.3	0.2	0.3 (0.1)	0.1	38.9
期末在庫量	33.2	31.5	24.2 (1.0)	2.9	▲ 23.2
期末在庫率	31.3%	25.7%	19.5% (・・・)	2.5	▲ 6.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	33.90	35.15	36.20 (35.82)	▲ 1.30	3.0
単収(t/ha)	3.38	3.42	3.37 (3.17)	0.16	▲ 1.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(15 February 2019)



資料: ブラジル商工サービス省 (Ministério da Indústria, Comércio Exterior e Serviços)

ブラジルのクロープカレンダー (2018/19年度) (中部から南部)

2018/19年度	2018年												2019年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
夏とうもろこし	リオグランデ・ド・スル州等												作付 5.02(百万ha)								
													収穫 26.45 (百万t)								
冬とうもろこし	マトグロソ州、パラナ州等												作付面積夏冬計 16.65								
													作付 11.81								
													収穫 65.2								
大豆													作付 35.82								
													収穫 115.3								

資料: CONAB 2019年2月

< カナダ >

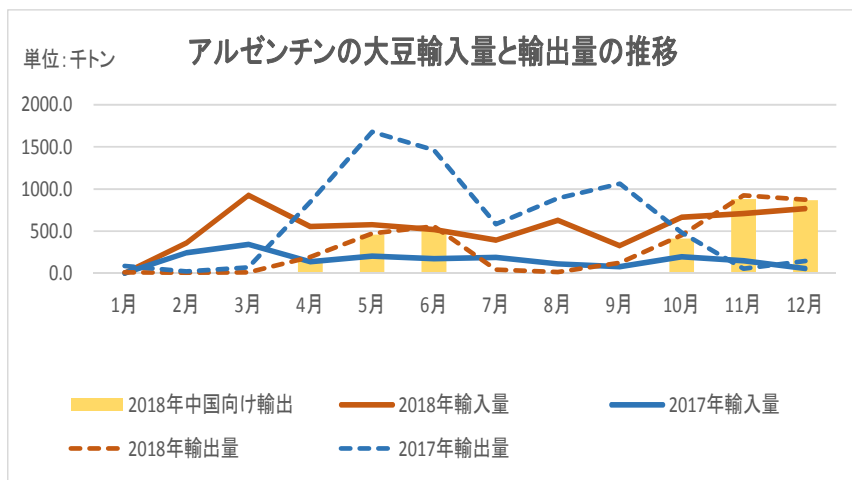
【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）によると、2月5日に公表されたカナダ統計局報告を反映し、2018/19年度の生産量見通しは、単収低下から、前月比0.2百万トンの下方修正となる7.3百万トンである。

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】昨年11月以降、降雨過多であったものが、今年に入り、適度な乾燥となり、土壌水分が生育に適した状況になったため、生育は良好である。ブエノスアイレス穀物取引所の2月21日付け週報によると、2018/19年度の作付面積は、17.7百万ヘクタールであり、生育状況は87%が良好。着莢（ちゃっきょう。花が咲いて莢（さや）がつくこと）の進捗は平年並みである。生産量は53百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2017/18年度は干ばつにより減産となったことから、国内需要を満たすため、輸出量が減少し、輸入量が増加している。2018年累計では、輸出369万トン、輸入644万トンとなった。輸出のほとんどは中国向けである。

なお、アルゼンチン国内で搾油した後、大豆油はインド、バングラデシュ等、大豆粕はインドネシア、ベトナム等に輸出されている。



大豆—カナダ

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はAAFC	前々月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.6	7.7	7.3 (7.3)	-	▲ 5.4
消費量	2.5	2.9	2.6 (2.4)	-	▲ 10.2
うち搾油用	1.9	1.9	2.0 (…)	-	3.3
輸 出 量	4.6	4.9	5.3 (5.5)	-	7.6
輸 入 量	0.5	0.5	0.6 (0.7)	-	19.1
期末在庫量	0.3	0.6	0.6 (0.6)	-	▲ 7.1
期末在庫率	3.9%	8.1%	7.4% (7.0%)	-	▲ 0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.23	2.94	2.55 (2.54)	-	▲ 13.3
単収(t/ha)	2.96	2.63	2.86 (2.86)	▲ 0.08	8.7

資料: USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)
AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」(22 February 2019)

大豆—アルゼンチン

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前々月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.0	37.8	55.0 (51.5)	▲ 0.5	45.5
消費量	49.5	43.1	49.4 (…)	1.5	14.5
うち搾油用	43.3	36.9	43.2 (38.6)	0.2	17.0
輸 出 量	7.0	2.1	6.3 (12.9)	1.3	198.6
輸 入 量	1.7	5.1	5.4 (4.8)	1.2	5.9
期末在庫量	27.3	24.9	29.6 (5.0)	▲ 11.8	18.7
期末在庫率	48.3%	55.0%	53.1% (…)	▲ 0.25	▲ 2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.34	16.30	17.50 (17.10)	▲ 1.00	7.4
単収(t/ha)	3.17	2.32	3.14 (3.01)	0.14	35.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(8 February 2019)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(15 February 2019)

< 中国 >

【生産・生育状況】主産地である黒龍江省では、前年と比べ減産であるが、内モンゴル自治区、河北省等で栽培面積が増加していることから、全国では増産となった。2月13日付けの中国糧油情報センターの2月13日付け情報によれば、2018/19年度の生産量は、前月と同じ16.0百万トンである。

【需給動向】昨年11月以降、東北部産の新穀大豆が市場に流通し始め、供給量が増加し、その傾向が続いており、中国農業農村部によると、国内価格は低調である。

【貿易情報・その他】貿易統計では、1月の輸入量は738万トンと前年同月より13%減、単価は前年同月と比べ3,101.5元/トンと上昇している。輸入量のうち、米国産は13.6万トン、ブラジル産は490万トンとなっている。(前年同月は、それぞれ580万トン、210万トン)

大豆－中国

USDAの1月データは未公表のため2018年12月データと比較 (単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前々月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	13.6	15.2	15.9 (14.2)	▲ 0.1	4.6
消費量	103.5	106.3	106.1 (…)	▲ 3.5	▲ 0.2
うち搾油用	88.0	90.0	89.0 (84.8)	▲ 3.5	▲ 1.1
輸 出 量	0.11	0.13	0.10 (…)	-	▲ 23.1
輸 入 量	93.5	94.1	88.0 (87.5)	▲ 2.0	▲ 6.5
期末在庫量	20.7	23.5	21.2 (…)	1.4	▲ 9.8
期末在庫率 (参考)	19.9%	22.1%	20.0% (…)	1.9	▲ 2.1
収穫面積(百万ha)	7.60	8.25	8.83 (7.10)	-	7.0
単収(t/ha)	1.80	1.84	1.81 (2.00)	-	▲ 1.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(15 February 2019)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2018/19年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆	なたね
米国	18年6月～19年5月	18年9月～19年8月	18年8月～19年7月	18年9月～19年8月	
カナダ	18年8月～19年7月			18年8月～19年7月	18年8月～19年7月
豪州	18年10月～19年9月		19年3月～20年2月		18年12月～19年11月
EU	18年7月～19年6月				
中国	18年7月～19年6月	18年10月～19年9月	18年7月～19年6月	18年10月～19年9月	
ロシア	18年7月～19年6月				
ブラジル		19年3月～20年2月		18年10月～19年9月	
アルゼンチン		19年3月～20年2月		18年10月～19年9月	
タイ			19年1月～12月		
インド			18年10月～19年9月		
ベトナム	18年7月～19年6月		19年1月～12月		

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2018/19年度は、米国の小麦では2018年6月～2019年5月、ブラジルのとうもろこしでは2019年3月～2020年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads?tabName=default>

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2019年2月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構
ASF	アフリカ豚コレラ

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-3502-8111 (内線 3805)
--